近畿自然歩道とは?

自然にふれあい、自然の中で育まれた地域の歴史や文化を楽しむための歩道です。総延長は3000ｋｍを超え、伊勢志摩地域では約240ｋｍが指定されています。

歩道利用時の注意点

- この自然歩道は漁業を中心とした沿岸部の集落の中を通行します。周りに漁具や海産物が置かれている場合があります。これらには手を触れないようにしましょう。
- 地元の生活道路を通行します。早朝や夕方に歩く場合は、反射材を着用するなど、視認性の向上に努めて下さい。
- ハチやダニなどに刺されないよう、肌の露出は極力避けましょう。
- 集落内で地元の人に会ったら、あいさつをこころがけましょう。

こんなときは?

■「軽いけがをした、体調が悪くなった」

救急車を利用するほどではない場合、救急対応してくれる病院を案内してくれます。

志摩広域地域救急医療情報センター

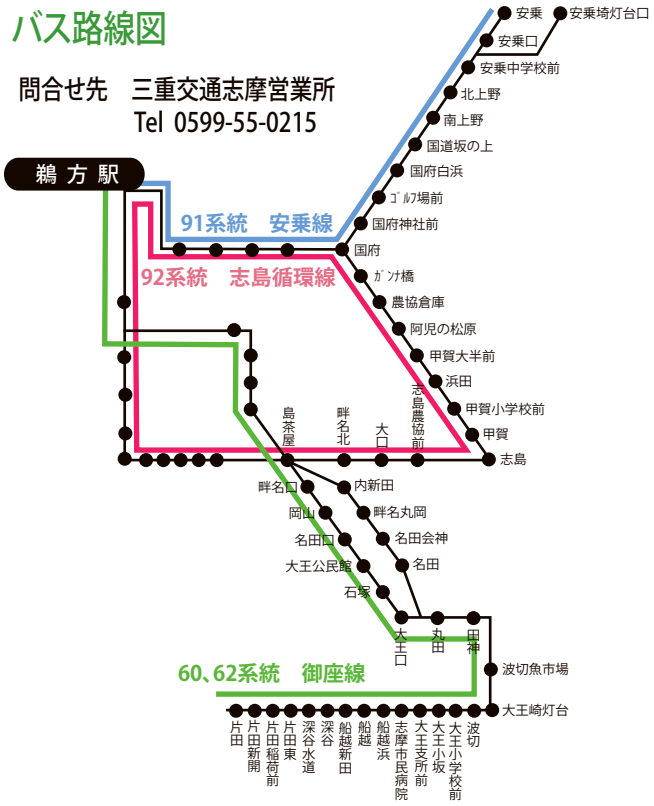
Tel：0599-43-1199

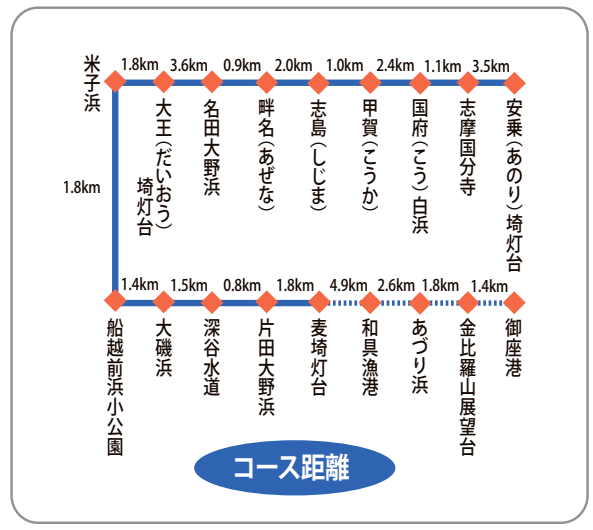
■「防災無線のサイレンが聞こえたら」

津波警報が発令された可能性があります。急いで高台へ退避してください。地震を伴わない場合もあるので注意して下さい。

バス路線図

問合せ先　三重交通志摩営業所
Tel 0599-55-0215





「近畿自然歩道」に関する問合せ先

伊勢志摩国立公園管理事務所　Tel 0599-43-2210

2015.3作成　2020.3改定

伊勢志摩国立公園

近畿自然歩道マップ

安乗～片田　編

ANORI↔KATADA

志島 市後浜

波切（なきり）～片田（かただ）コースの魅力

あまたの画家たちに愛されてきた大王埼灯台とその周辺の建築物は太平洋に面した海岸環境とそこに生活する人たちの、厳しくも調和した人と自然の融合を感じずにはいられない。集落の中に足を運べば石積みの垣や階段も多く残されており、時を忘れてしまう。

波切から片田にかけては幾つもの浜が点在し、一つ一つが異なる様を見せているため歩いていて飽きることがない。

片田の麦崎は、灯台の下に潮溜まり（タイドプール）が広がっているため干潮時であれば海に入らずとも多様な生き物を観察でき、旅をより奥深いものにしてくれる。

①波切漁港

大王町における漁業の拠点となる漁港。沿岸漁業を行う様々な漁船が見られ漁師さんに出会える場所である。

②大王埼灯台からの眺望

大王埼灯台は9:00～16:00のあいだ参観が可能である（￥200）。太平洋はもちろん志摩市の広範囲を眺めることができる。

③大王埼灯台

「絵描きの町」としても有名な大王町は灯台周辺に絵になるスポットが点在する。写真は波切城址の八幡さん公園からのもの。

④米子浜

人里から離れた静かな砂利浜。大潮干潮時など条件が良ければ、海食洞門のある東側の浜へも行ける。

⑤船越大池

海から隔離された自然の池で夏にはハスの花が美しい。周辺はイグサが優占していて冬は渡り鳥も越冬する。

⑥片田稲荷

海沿いに赤い鳥居が映える稲荷神社である。浦島太郎が装飾された棟瓦や本殿の天井画など見どころが多い。

⑦麦埼灯台

太平洋を一望できる穴場スポット。あずま屋やベンチがあり休憩箇所としても丁度良い。

⑧麦崎

潮通しが良い遠浅の磯が広がり干潮時は磯の生物観察もできる。夏の昼間は海女さんが漁をしているのも見られる。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分１地形図を複製したものである。（承認番号　平 26 部複、第 90 号）」

1：22500
1000m
N

凡例
- 近畿自然歩道
- WC トイレ
- バス バス停
- 飲食店等
- 標識・案内板

①安乗埼灯台

17世紀に船の道しるべとして建てられたことに由来する四角い灯台。参観可能（9:00～16:00　大人￥200）

②志摩国分寺

奈良時代に創建された志摩地域の国分寺。現在の本堂は江戸時代に再建されたもので軒の木彫が美しい。

③国府白浜

志摩で最も長い自然の白い砂が美しい砂浜。良い波が来ると大勢のサーファーが各地から集まってくる。

④国府神社

国府の集落内にある神社。社殿の周りには常緑樹が茂り、落ち着いた雰囲気を味わえる。

⑤マキ垣

国府の集落は海に面しているため防風防砂目的でマキの生垣で屋敷を囲いやさしい街並みを作り出している。

⑥おじょか古墳

志島の海を望む高台に位置する5世紀頃の古墳。周囲を住宅に囲まれているため気づきにくい。

⑦ウバメガシのトンネル

海岸部ではウバメガシのほかにトベラやシャリンバイなどの海岸性常緑樹が茂っていて夏も涼しい。

⑧名田大野浜

畔名から名田に抜ける地元の人しか通らない山道の先に現れる美しい砂浜。

⑨大井浜

大王町の名田と波切の間に位置する観光客もめったに来ない静かな砂利浜。

海女漁は船で沖に出る舟人（ふなど）海女と沿岸から直接漁を行う徒人（かちど）海女に大別される。この近畿自然歩道コースでは特に夏場に磯場などで海女漁の様子を見ることができる。地域によって漁具や漁装に差異があり見比べるのも面白い。

ウミガメの来る砂浜

北太平洋を回遊することが知られてきたアカウミガメは、国内では遠州灘や紀伊半島をはじめとした各地で産卵するが、伊勢志摩も重要な産卵地域である。運が良ければ夏の早朝、産卵後の個体や産卵跡を見ることができるが、距離をとって見守ってあげて欲しい。

伊勢志摩国立公園

伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町に広がり、55,544haの区域をもつ国立公園である。

昭和21年（1946年）に指定され、伊勢神宮と背後に広がる宮域林を中心とした内陸のエリア、小さな入り江と岬を無数に作り出しているリアス海岸に代表される海沿いのエリアに大別される。他の国立公園に比べて民有地の割合が非常に高く（90%以上）、公園内の居住人口も圧倒的に多い。そのため、地域の方たちの生活、歴史、文化、風習などに深く触れられる公園である。

伊勢志摩地域は、「みけつ国」として万葉の時代から海産物の産地として栄え、豊富な海岸線を生かした養殖漁業や海女漁など多様な水産業が営まれてきた。人々の生活と密接に関係する社寺仏閣も多く残され、生活や歴史、文化を包み込むここの自然は、里山、里海として現在も生き生きとしている。

安乗（あのり）～国府（こう）～甲賀（こうか）～畔名（あぜな）コースの魅力

安乗岬は展望に優れた園地として整備されており、太平洋、的矢湾を一望することができる。冬の好天時には希に富士山を遠望することも出来る。

国府白浜は砂浜が広がるビーチで、関西地方有数のサーフスポットでもある。南側は白砂青松が美しい阿児の松原海水浴場で夏場はにぎわう。

国府白浜の西側に広がる国府の集落に足を延ばすと、民家と調和した防風防砂を目的にきれいに手入れされたマキの垣根が見られる。

甲賀から畔名にかけては遺跡や古墳が数多く点在し、古代から生活しやすい場所であったことがうかがえる。悠久の歴史に思いを寄せながら歩みを進めるのもこのコースの魅力である。

伊勢志摩の海岸でも奥行きの深い砂浜はアカウミガメの産卵地でもあり、志島の市後浜も夏季には毎年産卵が確認されており、地元による保護活動も盛んである。

畔名の集落を過ぎると、ウバメガシを中心とした海岸性の常緑広葉樹に囲まれた未舗装路を歩くことになる。

潮風交じる里山は伊勢志摩の魅力の一つである。

● 標識・案内板例

写真のような標識や案内板が皆さんをご案内します

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分１地形図を複製したものである。（承認番号　平 26 部複、第 90 号）」